

令和元年1学期終業式のお話

～「夢なき者に成功なし」～

札幌市立東月寒中学校
校長 工藤 伸哉

北海道らしいさわやかな夏となった令和元年71日間の東月寒中の1学期が今日で締めくくりを迎えました。充実した中学校生活を過ごすことが出来たでしょうか。

1学期を振り返ると、行事では校外学習、宿泊学習、修学旅行で、各係が責任をもって仕事を分担し、その活動の上に立って、事故もなく、ルールやマナーを守り、成功裡に終えることができました。とりわけ3年生は、松尾芭蕉が、「夏草や兵どもが夢の跡」と詠んだ奥州藤原氏3代が栄華を極めた町、平泉を訪れました。中尊寺金色堂などの貴重な国宝を見学し、毛越寺の座禅体験で内なる自分と向き合い、翌日は、わらび座での踊り体験で学級ごとに団結して素晴らしいパフォーマンスを披露しました。最後にお礼に歌った皆さんの合唱は、力感あふれて大変素晴らしく、旅の良い思い出となりました。この旅行的行事で築いた級友との人間関係を大切にして、お互い切磋琢磨して受験勉強に邁進してください。

中体連では、各部がこの1年間に積み重ねた練習の成果を遺憾なく発揮しました。試合に出場し、東月寒中の代表として見事な戦いをした皆さんを大いに誇りに思います。残念ながら、時の運なく惜しくも敗れた皆さん、この悔しさをバネに今後も努力を重ねてください。また、中体連全道大会や吹奏楽コンクールを夏休みに控える皆さん、日頃の成果を存分に発揮し、大いに活躍することを期待しています。

そして今学期、このような人たちに出逢えたことが、とてもうれしかったです。元気でさわやかな挨拶する人。玄関のドアを開けて待つ人、授業に目を輝かせ学問を追究した皆さん、バス通りや玄関前にきれいな花を植えた皆さん、中体連で負けて悔しくとも「ありがとうございました」と頭を下げる人、公園の草やゴミを拾うボランティア、小学生と音楽の楽しさを分かち合った吹奏楽部の皆さん、などなど、東月寒中の皆さんの優しさと思いやりに支えられ、楽しく過ごすことができた東月寒中の1学期でした。ありがとうございました。

さて、明日から31日間の夏休みに入るに当たり、江戸末期から明治維新にかけて活躍した長州藩の高杉晋作、伊藤博文などを育てた思想家、吉田松陰の言葉を紹介します。それは、

夢なき者に理想なし

理想なき者に計画なし

計画なき者に実行なし

実行なき者に成功なし

故に 夢なき者に成功なし

という言葉です。どうでしょうか。この夏休みにしっかり自分に向き合い、自分の将来を考え、夢をもってください。そうすると1年後、2年後の自分のこうあるべきであるという理想の姿が見えてくるはずです。そのために計画を立て、その計画をしっかり実行に移してください。

最後に、一番大切なことを皆さんに伝えます。川や海などの水の事故、交通事故、自然災害、熱中症に十分気を付けてください。あなたの命は、自分だけのものではありません。命は、全員リレーのバトンのように、先祖から受け継ぎ、あなたの子孫につなぐ唯一無二のかけがえのないものです。日々、命を大切にして過ごしてください。それでは、8月26日、全員がここにそろって、始業式を行いましょう。皆さんが充実し、楽しい夏休みを過ごすことを期待して、私の1学期終業式の挨拶といたします。